

高木会長のご勇退について

塩 月 佐 一

(会員・佐伯市匠南)

去る二月二日の年頭拡大評議員会で、長年会長をつとめて来られました高木会長が、後進に道を譲られて引退なさいました。この時には「佐伯史談」第一四一号はすでに製版を終わっていましたので、余白で簡単にお知らせ致しました。

清田前副会長兼事務局長がおやめになったことは、前号でやや詳しくお知らせ致しましたので、高木前会長の業績について少し書いてみたいと思います。

高木前会長は唯一人の佐伯史談会生え抜きの方です。昭和三十三年五月二十三日、佐伯氏にゆかりの深い龍護寺に於いて「鶴岡郷土史研究会」が結成されました。会員は十一名でした。高木前会長はこの時、結成に参画された唯一人の生き証人です。

昭和四十年一月、休眠中の佐伯史談会と活躍中の鶴岡

郷土史研究会は念願の合併をして、第二次佐伯史談会が生まれました。この時、会長に高木前会長が推せんされ幹事長には引き続き羽柴幹事長が指名され、ここに高木・羽柴の名コンビが生まれたのでした。以来今日まで実に二十一年という長年月の間会長職におられたのでした。ほんとうにご苦労様でした。

高木前会長・羽柴事務局長コンビの業績は枚挙にいとまがありませんが、その二、三をあげてみますと、佐伯城櫓門の解体修理・龍護寺観音堂の解体修理・梅牟礼城跡碑の建立、その他文化財の保護顕彰、資料の発掘等に数限りない言っても過言ではありません。地方史研究に残された業績はまことに大なるものがあります。

今は会長の重責を果たされ、ほっとしていただけることと思いますが、是非次のことをお願い致します。

それは「佐伯史談会の回顧録」を書いて頂きたいということ。創立時代からの回顧録を書いて頂ける方は地球上に唯一人高木前会長しかいられないのですから。是非この長編を執筆して『佐伯史談』に連載していただくようお願い致します。

後任会長の選出は前例により、推せん委員会に託されました。その結果不肖私が会長兼事務局長ということになりました。ほんとうに思いもよらぬ結果になりました。「推せんされた人は何人も辞退することはできない」という合意の申合せがありましたので、やむなくお引受けするより仕方がありませんでした。私は粗雑な人間ですから不適格者であることは、私自身がよく知っているのですが、こうなった以上心よくお引受けするより方法のないことであり、至らない自分だと知りつつお引受け致しました。

輝かしい業績を持ち、県下に誇る佐伯史談会を傷つけないよう、皆様方のご指導とご協力により、精一杯努力したいと思っています。どうかよろしくお願い致します。

昭和六十三年は佐伯史談会創立三十周年に当たります

ので、意義ある記念行事をしたいと考えております。詳細は後日評議員会を開いて、最終的な計画をたてたいと考えていますが、会員の皆さんに「こんな事をしては」という案がございましたら、事務局の塩月までお知らせ頂けば有難いと思います。事務局や幹部だけでなく、会員の皆さんと一体になって、意義ある記念事業を成功させようではありませんか。

